

# やまぞえ未来創生計画(第5次総合計画)【概要版】

## 1 はじめに

全国的に人口減少・少子高齢化が進む中、本村では全国平均より高い水準で人口減少・少子高齢化が進んでいる現状にあります。特に人口については昭和35年の約6,800人から、令和2年には3,226人(国政調査)にまで減少し、出生数の低下や若年層の流出がそれに拍車をかけ、2025年には3,000人を切り、さらには2040年には2,000人を下回り、高齢化が70%を超える集落が増えることも予想されます。

しかし、こうした状況の中でも、私たちはこの村の可能性をあきらめていません。小さな村だからこそ、顔の見える、互いに支え合いながら安心して暮らしていける「本来の自治」を発揮できる村でありたいと考えます。豊かな自然に恵まれ、古代からの歴史・文化に育まれた山添村民は、人が生きるために「人とのつながり、心と体の健康、仕事や活動のやりがい、経済的な安心、地域との関わり」の大切さを享受しています。今後も山添村らしい暮らしの質を高める視点を大切に、山添村のこれからをどうしていくべきか、村民みんなと一緒に考え、実施していきたいと思っています。

令和8年4月 山添村長 野村 栄作

## 2 やまぞえ未来創生計画(第5次総合計画)について

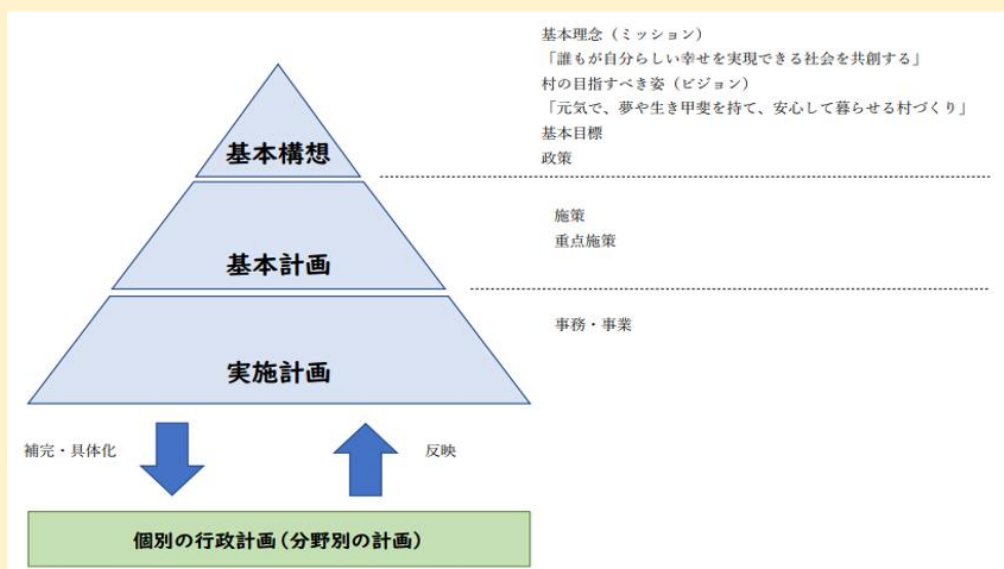
### ○計画策定の趣旨

やまぞえ未来創生計画(第5次総合計画)は、むらづくりの最も基本となる計画です。令和7年度末で「やまぞえ未来創生計画(第4次総合計画)」が終了することから、村では村内の有識者の方による会議や村民の皆様からの意見公募などを行いながら令和8年度から令和15年度(8年間)を計画期間とする次期総合計画の策定作業を進め、「やまぞえ未来創生計画(第5次総合計画)」が令和8年3月18日の村議会定例会において議決されました。

令和8年4月からは、本計画で掲げた村の「基本理念」「将来像」を実現するため、引き続き村民と議会と行政による協働のもと、むらづくりのための各種取り組みを進めていきます。

### ○計画の構成と期間

- ・本計画は、「基本構想」、「基本計画」、「実施計画」により構成します。





## **人口減少の加速が生活サービス維持を困難に**

日常生活を送るために必要なサービスは、一の人口規模の上に成り立っています。人口減少によって、地域からさまざまなサービス産業の撤退が進み、生活に必要な商品やサービスの入手が困難になることが懸念されます。日々の生活が不便になることで、さらなる人口流出を招き、人口減少の負の悪循環に陥ることが懸念されます。

## **持続可能な「いつもの暮らし」を守るために**

日本全体が少子高齢化による人口減少という大きな流れの中にあり、本村もその例外ではありません。特に、奈良県内の将来推計からも、人口減少が進むほど高齢化のスピードが速まる傾向が明らかになっています。

このような背景を踏まえれば、高齢者が安心して暮らせるむらづくりは、今すぐ取り組むべき最重要課題です。限られた資源のなかで、効率的で質の高い生活サービスを維持できるよう、村の仕組みを時代に合わせて変革することが必要です。

## **村の個性を活かし、人が集う「活気」をつくる**

もちろん、村の活力を失うわけにはいきません。若い世代が少なくなることへの漠然とした不安を希望に変えるため、地域を応援し多様な形で関わってくれる新しい仲間である「関係人口」との温かい「つながり」を育む必要があります。村外からの知恵や力を借りて地域に新たな活気を生み出すとともに、本村が持つ豊かな地域・環境の特性を最大限に活かした魅力あふれるむらづくりを推進します。

この「個性」を輝かせることで、「ここに住み続けたい」「ここに関わりたい」と思う人を増やし、人口が減りにくい持続可能な地域を実現します。

## **②財政状況と持続可能なむらづくりに向けて**

山添村の財政は、将来の安心・安全を支える基盤整備により、「貯金（基金）は確保されているものの、借金（起債）が急増し、将来の返済負担が重くのしかかる厳しい局面」にあります。第一の課題は、「地方交付税への高い依存」と「税収の減少」です。村の収入の半分以上は国からの交付税が占めており、令和3年度以降は横ばいで推移しています。一方で、本来の柱となるべき村独自の「地方税」は減少傾向にあり、自前の収入で行政サービスを賄う力が弱まっています。

第二の課題は、「公債費（借金の返済金）の増加」です。近年、こども園の建設や水道設備の更新といった大型事業が重なったことで、令和6年度末の借金残高は約46億3千万円に達しました。一時は約27億円まで減らした借金が過去最高水準まで戻ったことにより、今後はこれら利息を含む返済額がさらに増え、予算を圧迫することが予想されます。

現在は約26億4千万円の貯金がありますが、返済負担が増すこれからは、限られた財源をどの事業に優先して使うかという「選択と集中」が不可欠です。次世代に過度な負担を先送りしないよう、事務の効率化を徹底し、持続可能な財政運営を推進してまいります。

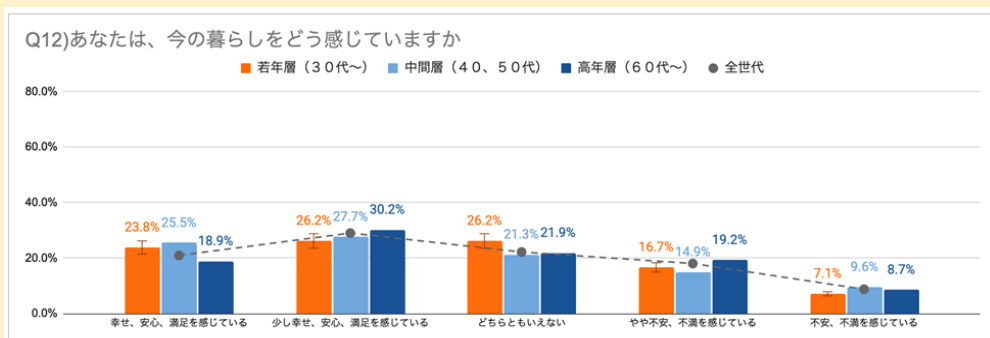
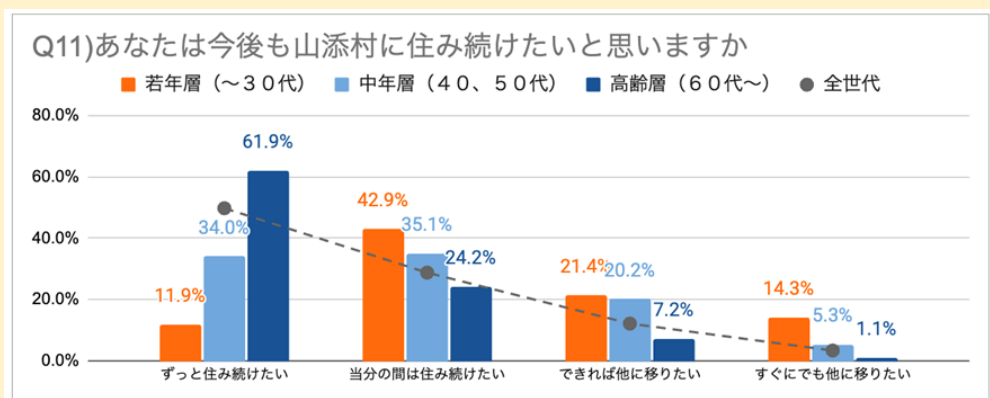
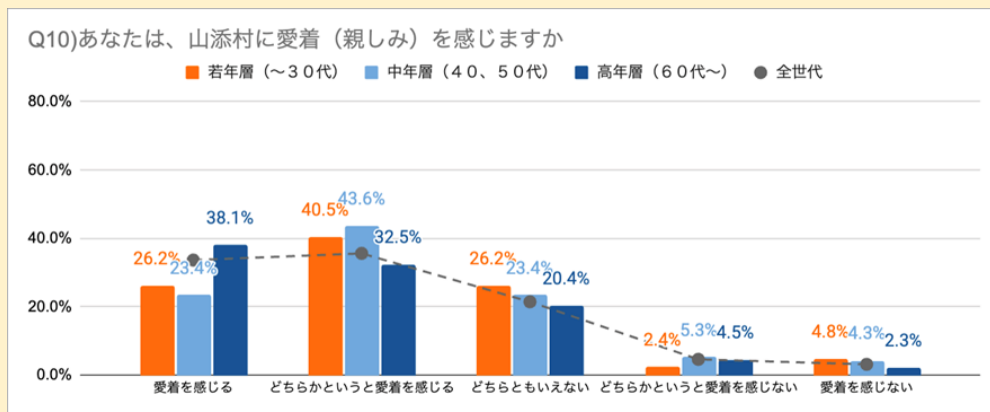
## 4 村民の思い

本計画の策定にあたり、令和7年度に16歳以上の住民800人を対象とした意識調査を実施しました（有効回収率51.4%）。調査結果からは、村の課題と住民が抱く将来への期待が鮮明になっています。

**【村への愛着と定住意向】** 全世代を通じて村への愛着は高く、住み続けたいという意向も一定数見られます。特に高齢層でその傾向が顕著ですが、一方で若年・中年層の約2割は「他に移りたい」と考えています。暮らしの満足度においても全世代の約3割が不安・不満を抱いており、愛着の高さと生活の充足感には乖離があるのが現状です。

**【生活上の課題と将来不安】** 具体的な不満要素として、若年層を中心に「働く場の不足」や「買い物の不便さ」が挙げられています。また、全世代で「交通手段の乏しさ」や「医療体制への不安」が共通の課題となっており、生活基盤の弱さが将来不安に直結しています。

**【今後の方向性】** 今後は、高い愛着を維持しつつ、全世代が望む医療・公共交通の充実に加え、若者が定住できる就労支援や利便性の向上に注力する必要があります。住民の声を反映し、活気ある地域づくりを推進することが、本計画の最優先事項です。



## 5 村の基本理念・将来像・行動指針

### 基本理念

#### 「誰もが自分らしい幸せを実現できる社会を共創する」

むらづくりは、村民の幸せを実現するために行うものです。村民の幸せを実現できるむらづくりをどうすればいいかを村民・議会・行政がともに考え、ともに創っていくことが大切です。

### 将来像

#### 「元気で、夢や生き甲斐を持って、安心して暮らせる村づくり」

村民が健康で安全安心に暮らすことができ、村民一人ひとりが互いを尊重し、寄り添い、支え合いながら、「ぬくもり」のあるむらづくりを行い、将来を担う子どもたちがのびのびと成長することができる村をめざします。

村民一人ひとりが夢や生き甲斐を持ち、その実現に向けて挑戦し、地域の資源を活かしながら、新しい価値をみんなで共創する活気ある村をめざします。

先人たちが築いてきた歴史文化を誇りに思い、豊かな自然を大切にしながら、みんなが「ずっと、ここに住み続けたい」と思える村を次の世代に引き継いでいきます。

### 行動指針

#### 「村民起点・村民共創」

むらづくりを考える起点となるのは「村民」です。そして、村民と議会と行政とが、対話を繰り返し、共に考え、手を携えて行うものと考えます。

#### ○むらづくりのための7つの基本目標

むらづくりの方向性を、次のとおり定めます。

##### ①安心して快適に暮らせるむらづくり【防災・防犯・基盤インフラ】

- ・村民の生命と財産を守ため、災害への備えを充実させるとともに、犯罪の防止に取り組むことで、安心安全な地域社会の構築に努めます。

村民の暮らしを支える基盤となるインフラを整備します。

##### ②自然豊かで美しい環境を保てるむらづくり【自然・環境】

- ・豊かな自然環境を守るため、環境にやさしい取り組みを推進することで、自然環境の保全に努めます。

##### ③学ぶ喜びを感じることができるむらづくり【子育て・教育・文化】

- ・誰もが自分らしく生きることができる共生社会をめざして、子どもから大人までが学び続けることができる環境を整えます。

#### ④心身ともに健やかに暮らせるむらづくり【健康・医療・福祉】

・元気で、夢や生き甲斐を持ち、生涯を通じて健康で暮らせるよう、医療体制を整備します。

#### ⑤活気と賑わいのあるむらづくり【産業・雇用・交流】

・地域の活気と賑わいを生み出すため、関係人口や地域活性化の取り組みを推進し、地域で経済が循環する持続可能な社会をめざします。

#### ⑥健全で持続可能な行政運営ができるむらづくり【行財政・変革】

・村民目線で、村民の幸せを実現し続けるため、選択と集中による効率的な行政経営に努めます。

#### ⑦ひとりひとりが活躍できるむらづくり【地域再デザイン】

・住民自治を推進し、村民一人ひとりがむらづくりに「自分ごと」として参画できる仕組みを構築します。そのために、タウンミーティングやアナログ、デジタル両面でのアンケート等を通じて課題や方策を共有し、住民協働への共通理解を醸成していきます。

村民が地域に愛着を持ち続け、関係人口を創出するため、地域の魅力を発信する取り組みを行います。

### <政策の体系>

むらづくりの方向性 (基本目標)	政策区分 (一般的な政策項目)	施策区分 (事業の推進方向)
《防災・防犯・基盤インフラ整備》 ～安心して快適に暮らせる むらづくり～	◎防災 ◎防犯 ◎消防 ◎公共施設 ◎公共交通 ◎公共道路 ◎上下水道	◆有事に備える防災対策 ◆身近な防犯対策 ◆消防の効率的な組織構成の検討 ◆公共施設の再整備、再配置 ◆交通手段の確保、充実 ◆暮らしを支える道路整備 ◆上下水道等の整備
《自然・環境》 ～自然豊かで 美しい環境を保てる むらづくり～	◎環境保全	◆自然や環境の保全 ◆ごみの減量化、資源化 ◆適正な生活排水の処理 ◆地域全体での環境施策の推進
《子育て・教育・文化》 ～学ぶ喜びを 感じることができる むらづくり～	◎子育て ◎学校教育 ◎生涯学習 ◎生涯スポーツ ◎人権 ◎歴史・文化	◆こども園を拠点とした子育て支援 ◆心身ともにたくましい生きる力を持った 児童生徒の育成 ◆地域とともにある学校づくり ◆誰もが気軽に学び活動できる機会の創出 ◆地域の歴史文化遺産の継承と環境づくり
《健康・医療・福祉》 ～心身ともに健やかに暮らせる むらづくり～	◎保健 ◎医療 ◎福祉	◆健康の保持、増進 ◆持続可能な医療体制の構築 ◆地域包括ケア体制の構築
《産業・雇用・交流》 ～活気と賑わいのある むらづくり～	◎農林業 ◎商工業 ◎移住定住 ◎地域プロモーション	◆地域産業の振興による地域経営の活性化 ◆地域資源を生かした移住定住施策の推進 ◆魅力的なむらづくりと関係人口の創出
《行財政・変革》 ～健全で持続的な 行政運営ができる むらづくり～	◎財政 ◎人事 ◎業務改善 ◎デジタル変革 ◎公民連携 ◎広域連携	◆健全な財政運営の維持 ◆村職員の人材育成と確保 ◆役場の業務や体制の再構築 ◆財源の確保 ◆情報、システムの強化 ◆民間スキルや資源の活用 ◆他の自治体との協働取組
《地域再デザイン》 ～ひとりひとりが活躍できる むらづくり～	◎住民協働、共創	◆多様性が尊重される人に優しい共生社会 の推進 ◆住民と行政との対話による地域課題の解決